

令和元年度 マンション管理組合懇談会実施結果

1. 日時 令和2年2月2日（日）10:00～12:00
2. 場所 竹の台地域福祉センター2F会議室
3. 参加者 15名

		マンション名	参加人数
1	2丁目	アルファステイツ	4人
2	6丁目	エクセルシティ	0
3	〃	ラ・フォルテ	1人
4	〃	アール・ヴェール	0
5	〃	ジオ	0
6	〃	プラウド	0
		合計	5人

竹の台地域委員会役員：7名

アドバイザー：スタジオ・カタリスト 松原永季氏

講師：兵庫県立大学 宮本 匠先生

西神中央あんしんすこやかセンター：松下所長



4. 内容

1. あいさつ

2. アンケート結果から（別紙参照）

（1）高齢化について

- ・ 独居高齢者や災害時要援護者は不明
- ・ 西神中央あんしんすこやかセンターから情報提供。介護や認知症など、気づくことがあれば相談を。

（2）話題提供～大規模マンションにおける防災の取り組みについて

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 宮本 匠先生

- 近年の災害の傾向としては、「災害関連死」、すなわち災害直接より、その後の避難生活で命を落とす割合が高いこと。避難生活が大切。
- 「避難所が足りない」「避難所が予定通り使えない」「避難所に行けない」などで、在宅避難や車中泊を選ぶ人も多い。その人達は見えにくく、孤立化しやすい。
- 熊本地震や大阪北部地震で見えてきたこと～マンションの防災で重要なこと
 - ・ 外見がわからない被災は支援が届かない。集まりにくい
 - ・ 戸建て住宅より孤立しやすい←平常時の隣近所付き合いがない。
 - ただでさえ避難生活は孤立しがちなのに・・・
 - 共用部分での避難生活について考えておく
 - ・ 避難所運営も重要だが、避難所は絶対足りないことも前提に
 - ・ 避難しなくて良いように（自宅避難）、まずは家具の固定を！



Q:熊本自身のマンションの被害は？

A:マンションによって被害は様々（地盤や構造や築年数による）

高層マンションは上階の方が被害が大きく、復旧も遅い。

Q:単身高齢者はどうされていたのか？

A:マンションとしての対応はほとんどない。個別対応。

あんしんすこやかセンター：検討会をしているが、災害時はヘルパーも1対1対応はできない。

地域での対応を！

- ・地域（委員会）から理事長への直接の連絡先がわからない。平常時は管理会社で地域からの情報が止まってしまう場合がある。緊急時には地域の中で連絡をとれる体制が必要ではないか。
- ・マンション内での安否確認は最低限必要ではないか。一斉避難訓練にも参加すべき。避難方法や避難所の場所・運営についても理解しておく必要がある。
- ・お母さん同士の「淡い付き合い」も大切。

5. その他

昨年10月の台風19号で首都圏の高層マンションが被災した際、停電が長引き住民が大変だったという事例や、避難所に行ったもののどこも満員で転々とさせられた事例を聞いた。竹の台には6つのマンション管理組合があるが、実際に災害が発生した場合、居住者が多いマンション住民の方々がどう対応されるのかは、竹の台地域の災害対応を考える上で非常に重要である。平常時に個々の管理組合と竹の台地域委員会とで災害対応マニュアルを確認しておきたいと考え、今回の懇談会のテーマを「防災」とした。また、具体的な事例をお聞きしたいと思い、兵庫県立大学の宮本先生に講師を依頼した。しかし、役員全員の参加を呼び掛けたものの、参加した管理組合は2団体、5名のみだった。マンション管理組合としての危機管理体制の中に、地域との連携はないのでしょうか。災害時には、個人・家族・一管理組合だけで対応しきれないのがわかったのが、25年前の阪神・淡路大震災の教訓であるはず。各団体で問題意識を持って取り組んでいただきたいと思います。

